

## 令和元年度 第2回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和元年 12 月 25 日（水）午後 2 時から午後 4 時まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1 階 登呂交流ホール
- 3 出 席 者 （協議会委員）  
山岡 拓也 会長、海野 美枝 委員、北川 和彦 委員、  
弓削 幸恵 委員、木村 貴子 委員、渋江 かさね委員、  
堀切 正人 委員、石亀 雅敏 委員、上原 薫 委員  
（事務局）  
田中 朗 静岡市観光交流文化局次長  
岡村 渉 文化財課長  
文化財課（登呂博物館）  
宮本担当課長兼館長、梶山主査、益田主査、  
鈴木主任主事、國島主任主事、川口主任主事
- 4 傍 聴 者 0 人
- 5 議事記録
  - 1 観光交流文化局次長挨拶
  - 2 委嘱状交付
  - 3 会長及び職務代理者の選任
  - 4 博物館施設視察
  - 5 議 事
    - （1）令和元年度前半の事業報告
    - （2）令和 2 年度の方針について
    - （3）議題 「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方」

### 事務局

定刻となりましたので、ただ今より令和元年度 第2回 静岡市立登呂博物館協議会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。  
はじめに、本日の会議ですが、委員定数 10 名のところ 9 名のご出席をいただき、過半数に達しているため本会議は成立いたします。

また、この会は市民に公開されておりますが、本日は、傍聴希望者の方はい

らっしゃらないことを併せて報告させていただきます。

それでは、静岡市観光交流文化局 次長 田中朗よりご挨拶を申し上げます。

#### 観光交流文化局次長

みな様、本日は大変お忙しい中、令和元年度第2回静岡市立登呂博物館協議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は、静岡市観光交流文化局、局次長の田中でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。開会にあたりまして、ひとこと、ご挨拶させていただきます。

登呂博物館には、教育の現場としての役割を果たしつつ、特別史跡である登呂遺跡を保護・活用する拠点であり、「東アジアの中の登呂遺跡」という広域的な視野に立ち、その文化的、学術的な価値を検証し、広く発信するという重要な使命があります。

来年度は、リニューアル10周年ということで、私の年代ですと、旧博物館やジャングルのような登呂遺跡の状況が記憶にある方もいらっしゃると思います。その頃は、土産物屋があつたりして観光的にもにぎわっておりました。また教科書にも登呂遺跡が載っており、弥生時代の遺跡は登呂遺跡という事が、全国的にすりこまれた状態でしたので、どこに行っても「登呂遺跡」が通じていました。しかし、その後吉野ヶ里が発掘されたりして、今では、知名度が低くなってきたところですが、ただ、当然、登呂遺跡がもつ学術的な意味が低くなった訳ではございません。昨年は市長の諮問機関の静岡市行財政改革推進審議会へ、遺跡、博物館を含めた登呂エリアの活性について諮問いたしました。今年の三月の答申の中で、資料にありますとおり、「歴史、文化資源の活用及び、その周辺地域との連携による地域活性化について」という、活用も含めて市民の誇りとなるような場所にしていくようにしてはどうかという答申をいただいております。今日は議題にもございますが、「登呂遺跡を誇りに思う市民を育む登呂博物館の運営の在り方」をみなさんにご審議いただきますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

#### 事務局

ありがとうございます。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず、配布資料の確認をお願いいたします。

・静岡市立登呂博物館協議会委員名簿

- ・次第
- ・資料
- ・登呂博物館パンフレット
- ・年間スケジュール
- ・令和元年度 登呂博物館組織図
- ・チラシ「古墳のきらめき 一賤機山古墳展一」
- ・登呂博物館 館報 平成 30 年度分
- ・歴史文化資源の活用及び、その周辺地域との連携による地域活性化について  
(答申概略版)
- ・登呂エリアにおける歴史文化資源の活用方策の検討状況  
(施策案概略版)

以上でございますが、お手元に揃っておりますでしょうか？

では、次の次第に進めさせていただきます。

次に博物館協議会委員の委嘱でございますが、委員の任期は令和元年 8 月 1 日から、令和 3 年 7 月 31 日までの二年間になります。

それでは、委嘱状を交付させていただきます。なお、北川委員、杉山委員におかれましては市職員として協議会委員に任命させていただいております。

—田中次長より委嘱状手交—

(海野委員、弓削委員、木村委員、山岡委員、渋江委員、堀切委員、石亀委員、上原委員)

改選後初めての協議会となりますので、各委員のみなさんより自己紹介を兼ねてご挨拶をお願いいたします。

北川校長

南部小学校に 4 月から赴任いたしました、校長の北川と申します。よろしくお願いたします。南部小学校は、登呂遺跡で田植えをさせていただくなど、本当にお世話になっております。

私自身も、この夏に自分の子どもとこのお祭りに参加して、土器作りやすごくをやりたりして、自分も楽しみましたが、本当に楽しいイベントでした。

色々お世話になりますが、よろしくおねがいます。

#### 海野委員

日常的には、企業や団体の、経営や運営の改善のサポートをさせていただいております。県内各地に様々なネットワークをもっており、それを活用したマーケティングリサーチなどをさせていただいております。2年間よろしく申し上げます。

#### 弓削委員

まちなびやはNPO法人で、「子どもと地域をつなぐ」をモットーに、今は働く大人を紹介する「コドモンデ」を発行して、登場した方々に学校で授業していただくという活動や、子どもたち同士で学び合い、十円商店街のような企画をやらせていただいています。2年間どうぞよろしく申し上げます。

#### 木村委員

高松中学校PTAから参りました。私自身、森下小学校出身で、高松中学校区にずっと住んでおりますので、登呂遺跡は本当に身近な場所になっております。登呂まつりなど、子どもたちが色々と参加させていただいておまして、私自身も一年で一番楽しみな行事です。どうぞよろしく願いいたします。

#### 山岡委員

静岡大学の人文社会学部で考古学を教えております。旧石器時代の研究をしておまして、人類進化の中で我々の、らしさ、人間性がどう獲得されたか、日本列島や東南アジアなど研究しています。農耕を始めてからという時代とは少し違う事を研究してますが、様々な博物館を見に行くこともあるので、そういった研究を少しでも生かせるようにできればと思います。どうぞよろしく申し上げます。

#### 洪江委員

同じく静岡大学の洪江と申します。私は教職大学院に所属しており、現職の先生の研修や、教育学部で教員養成をしています。ただ、元々の関心は、生涯学習や社会教育にあたりまして、学部生にはそういった授業をやっていきます。博物館についても、自分で勉強しつつ学生に教えているのですが、協議会でもみなさんから学んでいきたいと思っています。2年間よろしく申し上げます。

#### 堀切委員

常葉大学から来ました堀切と申します。菊川市に小さな古い常葉美術館がありまして、そちらの館長を兼務しております。大学では美術関係や博物館関係の授業をやっておりますが、大学に来る前は長野県の小さな美術館で9年間、その後静岡の県立美術館で11年間学芸員の仕事をしておりまして、合わせると20年間学芸員をやっております。ですから、博物館の現場については多少経験がありますのでそういう観点や、今も現職ではありますので、そういう観点からもお役に立てることがあるかという風に思っております。よろしくお願いいたします。

#### 石亀委員

家は近所で、登呂遺跡エリアと言われる近いところにいます。中田学区を中心に20年ほど地域福祉、高齢者はもちろん、子どもたちの支援のお仕事をさせてもらっております。前任期から市民委員を務めさせていただいて、地域のみなさんから登呂遺跡、登呂公園の位置づけ、または必要性や在り方を、お話しして参りました。今までも私なりの意見を申し上げてまいりましたが、もっともつこの登呂遺跡、登呂公園と住民との溝を浅くして、いい意味で登呂遺跡、登呂博物館、登呂公園と住民とのいい交流の場づくりにお役に立てたらと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 上原委員

「登呂会議」という団体に所属して「アートロ」という活動をしています。登呂の地をフィールドとして自分たちで稲を育てて、その稲で家の屋根を葺いてみようとか、かっこよく言えば実験考古学ですが、簡単に言うとメンバーの興味の赴くままに、自由に行動してみようという活動をしています。

私自身が街づくりに関係する仕事をしているので、この登呂博物館と地域が面白い化学反応ができるんじゃないかと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 事務局

ありがとうございました。それでは続きまして、館長より事務局職員を紹介させていただきます。令和元年度登呂博物館組織図の方をご覧ください。

館長

はい。それでは、改めまして館長の宮本です。これから2年間よろしく申し上げます。では順に紹介いたします。文化財課長は岡村です。

岡村課長

文化財課は市役所の17階にございます。その中に登呂博物館、三保のみほしるべ、それから文化財保護係、埋蔵文化財係、この四つの部門をまとめております。ただ、登呂博物館長は担当課長なので、ここで主な業務は館長が決裁をしますが、重要なことが私の方に上がってきます。この博物館協議会は、博物館法では館長の諮問という形なっています。そのため、以前は館長のみ出席でしたが市の全体的な方針に沿うような諮問や、ご意見をどのように反映するかということがございますので、私も出席して協議会での話を上部に伝えたり、上の話をここでお話ししたりというようなことをさせていただきたいと思います。そのため、議論していただく中で発言させていただくこともあるかもしれませんが、是非よろしく申し上げます。

—以下、博物館職員を紹介—

事務局

それではみなさま、どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、会長及び、職務代理者の選任ですが、協議会を代表する会長の選出につきましては、委員のみなさまの互選により定めることとなっております。どなたかご推薦をお願いできますでしょうか。

渋江委員

考古学ご専門ということで、山岡先生を推薦させていただきたいと思います。

事務局

渋江委員より山岡委員の推薦がございましたが、他にございますか。もしないようでしたら、山岡委員の会長就任にご異議が無ければ拍手でご承認ください。

—全員、拍手—

事務局

ありがとうございます。それでは山岡会長、会長席へご移動ください。また、ご挨拶をお願いいたします。

山岡会長

ご推薦ありがとうございます。こうした役割は初めてで緊張しておりますが、微力ながら役割をしっかりと果させていただきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

全員

よろしくをお願いいたします。

事務局

よろしくをお願いいたします。また、あらかじめ、会長の職務代理者を推薦、指名することとなっておりますが、こちらの方は山岡会長より指名をお願いいたします。

山岡会長

それでは、海野委員をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

海野委員

はい。

—全員、拍手—

事務局

ありがとうございます。それでは、海野委員は職務代理者席へ移動をお願いします。海野委員からもひと言ご挨拶をお願いします。

海野委員

2年間滞りなく、みなさまと一緒に進めていけるように、微力ではございますが一緒にやらせていただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

全員

よろしく申し上げます。

事務局

どうぞよろしく願いいたします。

次に、今回の委員改選によって、初めて登呂博物館協議会の委員になっていた方もいらっしゃいます。そこで、登呂博物館の施設をみなさまにご覧いただくための視察を行いたいと考えております。先導を館長が行います。みなさま、館長に続いてご見学ください。よろしく願いいたします。

—館長の先導により各委員視察へ。14：25～14：45—

事務局

ここからは議事に入りたいと存じます。議事は会長に司会、進行をしていただきます。山岡会長、よろしく願いいたします。

山岡会長

それでは、これより私のほうで議事の司会、進行をさせていただきますので、よろしく申し上げます。

議事の開始に当たりまして、本日の協議会は議事録についても公開することになっております。公開にあたり、内容について会長や委員が確認し、署名することになっております。

署名者として、私のほかお一人お願いしたいのですが、今回は職務代理者の海野委員にお願いさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

—全員、拍手—

それでは、次第に基づきまして、事務局より登呂博物館についての説明をお願いします。

館長

登呂博物館の概要を説明させていただきます。

1.登呂博物館の概要より、3ページに登呂遺跡のあゆみ、登呂遺跡略年表のページがございます。昭和18年に軍事工場を建設の際に、登呂遺跡が発見され

ました。そのあと、昭和 22 年に、登呂遺跡調査委員会による第 2 次発掘調査が行われ、昭和 22 年から 25 年までの間、4 年間にかけて、最初の中心になるような発掘をしています。その後、昭和 27 年に、国の特別史跡に指定をされました。昭和 30 年に、博物館のさらに前身となる、静岡考古館が開館しております。そのあと、昭和 47 年に静岡市立登呂博物館として、この建物の前身となる旧の博物館が開館しております。そのあと、平成 11 年から 15 年にかけて、登呂遺跡の再発掘調査を行っております。そして、平成 18 年から 23 年にかけて、登呂遺跡の再整備工事を行いまして、平成 22 年に登呂博物館がリニューアルオープンいたしました。来年でちょうど 10 年目となるところでございます。

次に、3.基本理念ですが、これは登呂博物館の建て替え基本構想を紹介させていただきます。

1. 登呂遺跡と一体化した遺跡博物館であること。
2. 稲作農耕文化に関する調査研究の拠点であること。
3. 登呂遺跡の発掘調査がもたらした意義の継承を行うこと。
4. 情報の収集と発信ネットワーク化の推進を行うこと。
5. 楽しく豊かに実感できる学びの創出を行うこと。
6. 学校教育との連携、生涯学習への支援を行うこと。
7. 「登呂学」の創造を通じた集いと交流の促進を行うこと。

こうしたものを博物館の基本理念としています。

次に、入館者状況です。登呂博物館入館者推移という表の右から三つ目のところに総入館者数の欄がございます。昭和 47 年に旧博物館が開館した時は総入館者数が 28 万人でした。その後、平成元年に向けて徐々に減少しておりますが、平成元年でも 21 万 5 千人の入館者数がございます。その後は平成 10 年頃から 10 万人を切るようになってまいりました。平成 20 年から 21 年にリニューアル工事のため閉館しております。平成 22 年 10 月に再オープンしましたが、10 月からの半年間で約 10 万人、翌平成 23 年度は 207,613 人の入館者がございます。平成 24 年から 28 年にかけては毎年 18 万人台の入館者でしたが、平成 29 年に 167,000 人と落ち込んでしまい、平成 30 年はほんのわずかですが増加しております。

入館者数の左欄が観覧者数ですが、この観覧者数も減少傾向が続いています。このあたりが現在の博物館運営の上での課題であると意識しています。

博物館協議会については、博物館法の第 20 条に博物館には博物館協議会を設

置できる旨の規定があり、館長の諮問機関としてこちらの登呂博物館協議会が設置されているわけです。このような登呂博物館の現状に対して、博物館がより良くなるよう運営についてのご意見をいただきたいと存じます。

会長

ありがとうございました。ご質問はございますか。無いようでしたら次の議題に移らせていただきます。

続きまして、令和元年度前半の事業について事務局から説明をお願いいたします。

館長

令和元年度前半の事業報告について報告させていただきます。

まず、4月以降の入館者数、観覧者数です。入館者数は博物館に入館された方の数で、観覧者数は主に2階の展示室に入場された方の数になります。下にある入館者状況比較で昨年との比較をいたしますと、現在のところ昨年よりも約3,800人入館者が増加しております。実は10月の台風で登呂まつりが中止になったり、JRのさわやかウォーキングが雨で中止になり、昨年に比べて約4,500人くらい落ち込んでいます。しかし、10月に4,500人落ち込んでいながら11月末現在では昨年よりも3,800人くらい増えておりますので、もし登呂まつりが開催されて、さわやかウォーキングもできていたら、もしかしたら、9,000人くらいプラスになれたかもしれないと、大変残念に思っているところです。

では、次に動態調査にまいります。都道府県別観覧者数調査「どこからきましたか?」という調査です。これは2階でシール貼付によるアンケートの集計結果になります。都道府県別上位5位は、1位が静岡県、2位東京都、3位神奈川県、4位愛知県、5位埼玉県、6位が千葉県となり、静岡県以外では、首都圏、愛知県、中京圏からの来館者が多く、主に日帰り圏の来館者が多いと分析しています。

海外からの来訪者の集計もございます。数は多くありませんが、国別では1位がアメリカで24人みえています。2位が中国の14人、3位が台湾の8人です。ただ、海外からの来訪者は、実際のところ登呂遺跡を目的にして来る方は個人とか旅行で来る方しかいない傾向ですので、これから増やしていく取り組みをしたいと思っております。

次に、広報媒体「なにで知りましたか？」をご覧ください。このアンケートでは、どうやって登呂遺跡、登呂博物館を知ったかというアンケートになっております。市内の方はやはり学校の教科書で知ったという方が 55%で一番多く、次いでその他、これはインターネットや、市の広報誌、おそらく口コミなどが多いのではないかと考えております。

市外についても学校教科書で知ったという方が 60%で、やはり登呂遺跡の知名度が非常に高いということをお知らせいたします。

次に、交通手段「なにで来ましたか？」の調査です。結果は、自家用車・東名経由が 33%、新東名経由が 12%ですので、合わせて 45%の方が高速道路で来訪し、ある程度遠方から来ている方が多いというのがわかります。それ以外にも国道 1 号経由、国道 150 号線経由とあり、自家用車でみえる方が大半を占めていることがわかります。次にバスですが、団体バスと公共交通機関のバスとの区別がされていないので、ツアーで来たのか個人で来たのか、また電車併用で来ているのか、そういったことがわからず、アンケートの取り方を改善する必要があると考えております。

連携地「つぎは、まえはどこに？」ですが、やはり連携地で一番多いのが久能山東照宮で 20%、その次が駿府城址、駿府城公園が 13%、次いで三保松原が 12%、この 3 か所が目立ちます。日本平も 12%ですが、昨年と同時期では 8%でしたので、おそらく夢テラスの開業効果ではないかと思えます。

それでは次に、令和元年度事業実施状況について報告させていただきます。

- ・春季企画展「石をつかった、土器をつくった。」

静岡市の歴史を追うシリーズの第 1 回目になっており、旧石器時代と縄文時代を紹介

- ・夏季企画展「FIRE」

火に関連した展示。キリンビバレッジ社と連携して展示やイベントに協力をいただいた。

- ・秋季企画展「芹沢銈介と考古（学）」

芹沢銈介の蒐集品の展示や、考古学的価値について紹介した。

- ・冬季企画展「古墳のきらめき 賤機山古墳展」（1 月～）

賤機山古墳の紹介をする展示。石棺レプリカなどを展示する。

- ・2 年春季企画展「お米づくり、はじめました。」（3 月～）

続きまして、講座・イベントは主なものだけ紹介いたします。

- ・ 登呂の遺跡の田んぼで赤米づくり体験  
市民に一区画の水田を貸し出して、一年かけて稲作する
- ・ 黒曜石はどこから来たか（春季企画展の関連講演会）  
54名参加
- ・ 黒曜石オリンピック（春季企画展の関連事業）  
鹿の角のハンマーを作り、黒曜石を実際に割る体験をしながら、  
当時の黒曜石の利用の仕方を学んでもらう
- ・ 竹あかりワークショップ（夏季企画展の関連事業）  
竹で作った筒にキャンドルを入れて遺跡をライトアップした  
講師は久能山東照宮の竹あかりを企画している大村氏
- ・ 火と熱のひみつ（夏季企画展の関連事業）  
静岡科学館る・く・る職員に火おこしの仕組みを科学的に検証して  
もらった
- ・ とろムラ体験フェスティバル  
火おこし、丸木舟、弓矢など様々な体験とスタンプラリー  
延べ参加者数 1,480 人
- ・ 芹沢銈介と考古資料（秋季企画展の関連講演会）  
東北福祉大学の芹沢銈介美術工芸館の学芸員を講師として実施
- ・ 賤機山古墳と駿河の首長（冬季企画の関連講演会）（2月）  
当館と富士市の富士山かぐやひめミュージアムとの連携事業  
清水市庁のふれあいホール（定員 220 名）で実施  
複数の講師による東駿河地域の古墳時代後期についての講演

その他、出張講座ですが、市政出前講座が5回、これは申込みを受けて学芸員を派遣するものですが、去年は1回だったものが、今年は5回声がかかりました。次に、共催連携事業になります。主なものを紹介します。

- ・ 登呂弥生がテーマのファッションショー  
ミュージアムショップが企画、弥生時代のファッションショーとして  
ショー形式で出演者が考案した衣装を着て披露する企画
- ・ 第57回 登呂まつり  
台風19号の影響で中止

- ・スルガフェス in 登呂

駿河区地域総務課が主催

駿河区の魅力発信のために、大学生を中心に、若者を中心としたイベント  
来場者約 1,700 人

- ・登呂ミュージアムストリート 2020（2月）

駿府博物館、芹沢銈介美術館、当館の3館を回遊するイベント  
スタンプラリーで全ハンコを集めた方に記念品を贈呈、加えて、  
もちのいえのやまだいちの協力で安倍川もちを贈呈  
キッズアートプロジェクトの助成金活用

以上、前半の事業報告とさせていただきます。

#### 山岡会長

質問も含めて、みなさんからのご意見をお願いします。

#### 北川委員

とろムラ体験フェスティバルには、私も子どもを連れて来ましたが、様々な体験を一日楽しみました。1,400～1,500人が集まるということは、すごく意味があるなと自分も体験して感じた次第です。改めて説明いただいて、本当にたくさんですね、興味をそそられるような企画があるとわかりました。

#### 山岡会長

ありがとうございました。他にご意見ございますか。

続きまして、令和2年度の事業方針について事務局から説明をお願いします。

#### 館長

令和2年度の事業について、まずは企画展です。例年どおり春夏秋冬と年度またいて5回開催します。

- ・春季企画展のテーマ「地域の遺跡、歴史、文化を学ぶ」

「お米づくり、はじめました。」

- ・夏季企画展のテーマ「登呂につながること」、「登呂つながりを見る」

（仮称）「家展」、今の建物について、より新しい可能性を提示

- ・秋季企画展のテーマ「登呂を中心とした考古学（研究成果の紹介）」

(仮称)「水と共に生きる 静岡平野のパイオニア」、登呂ムラの治水、水利など水に関する展示

- ・ 冬季企画展のテーマ「幅広いテーマ（考古学以外も可）」

(仮称)「ちっちゃ展」、ミニチュア土器とか、小さなものに焦点を当てる

- ・ 3年春季企画展（テーマは春季企画展と同じ）

(仮称)「静岡市の古墳時代」

その他、遺跡内での体験や教育普及事業などを進めていきます。また、重要文化財である出土品の保存整備事業も継続して進めて参ります。

以上、令和2年度の運営方針の説明させていただきます。

山岡会長

ありがとうございました。それでは、質問や意見がありましたらお願いします。

弓削委員

質問です。企画展は色々と計画があっっておもしろそうだなと思います。ちょうど建築関係の方と接点があり、今年「大工に弟子入り講座」を初めて開催したら、釘を打つだけの企画でしたが、大変好評でした。おそらく、家づくりの原点を「家展」で取り上げるだろうかと思いますが、この企画展でいう家は、弥生時代の家ということでしょうか。そうであれば、現代の一般的な家との比較や、土台の部分は考え方が同じだとか、昔と今の生活がつながっているというところが垣間見られると面白いだろうと思います。できれば実際に組み立てて、つみきでもいいと思いますが、構造の意味を学ぶなど、体験型で来場者が関われる余地があるといいと思います。

館長

詳細は学芸員が考えておりますが、今ある復元した家はあの形が唯一正解というわけではなく、もちろん発掘の成果を基に復元をしていますが、別の可能性などを考えるきっかけとなるような企画展にしたいと思っております。

それと、関連事業として、上原さんが加入していらっしゃる登呂会議で家を建てるプロジェクトをやっていらっしゃるのので、何か一緒にやりたいと考えておりますので、これからだんだん詰めていきたいと思っております。

山岡会長

他にご意見ございますでしょうか。

では、続きまして、今回の議題である「登呂遺跡を誇りに思う市民をはぐくむ登呂博物館運営のあり方について」について事務局から説明をお願いします。

館長

今期の議題については、先程、次長の挨拶にもありましたが、市の行財政改革推進審議会で「登呂エリアの歴史文化資源の活用及び周辺地域との連携による地域活性化」について、登呂エリアをモデルに歴史文化資源をどう活用していったらいいかを答申をもらいました。その答申の内容は、登呂エリアの目指す姿としてまず、「稼げる施設（文化力・経済力）」となること、「市民が誇りを持てる施設・シビックプライドの醸成」の2点が目指す姿としてあげられています。そして、目指す姿に近づくための3つの提言があります。

- ①市外から誘客を図る
- ②訪れた人が楽しめるような仕掛けをつくる
- ③地域に対する愛着を育んでいく

目指す姿のうち、「市民が誇りを持てる施設・シビックプライドの醸成」について、登呂博物館では、学校連携、地域連携の実績を持っております。内容は、先ほど紹介した市政出前講座や、城南静岡高校に展示ガイドやイベントに協力してもらったり、常葉大学には紙芝居、すぐろくのイベントを実施していただいたり、静岡大学のサークルが着ぐるみでイベントに参加してもらったりという大学、学校との連携があります。地域連携としては、登呂まつりや、アートルなどがあります。

ただ、取り組みはしていても、さらにシビックプライドの醸成をする上で、どのような取り組みが必要なのか、今までの取り組みをさらに深めていくために、議題としてあげさせていただきました。登呂遺跡を誇りに思う市民を育む＝シビックプライドの醸成のため、学校連携や地域連携をどのようにしたらいいか、そういった方向について提言をいただきたい。

山岡会長

ありがとうございます。今の事務局からの説明をふまえた上で、登呂遺跡を

誇りに思う市民を育む登呂博物館運営の在り方について、ご意見ありますか。

#### 上原委員

シビックプライドの醸成って、字面からしてちょっと固いなと思います。誇りとは愛着感ではないかと思います。愛着感の醸成とはよく言いますが、そちらの方が大事ではないかと思っております、やっぱりいかに自分に身近であるかということだと思います。例えば清水区には巴川があつて、それほどきれいではなく、たまに氾濫したりもしますが、どうも旧清水市民にとっては心のよりどころになっているなと思います。身近に感じるというと、私の経験ですが、私は静岡大学の出身ですが、子どもたちに YouTuber のはじめしゃちょーの出身大学だつて言ったら急に目を輝かせて「お母さん、すごいね」と言い始めました。大学というと小学生や中学生の子どもたちにとっては、「あんまり関係ない」所なのでしょうが、YouTuber が出てきたことでぐっと近く感じられ、大事にしたいとか、誇りとかに結び付いたのだらうと思います。単に「素晴らしいよ」と言っても、どんどん遠くに行くだけのような気がします。なので、シビックプライドって、とても大事だとはわかりますが、登呂遺跡をより身近に感じられるような取り組みにしていっていいんじゃないかなと思います。

#### 山岡会長

ありがとうございます。あと、活用方策の検討状況が説明されている資料についても事務局から追加説明をお願いします。

#### 館長

説明を略しすぎておりました。答申の資料をご覧ください。

「市外からの誘客を図る」、「訪れた人が楽しむ」、「地域に対する愛着を育む」とありますが、そのうち、「地域に対する愛着を育む」が今回の議題に関わる項目になります。

##### ア 郷土の誇りとしての存在感の醸成

小中学生に授業等を通して登呂エリアが持つ価値をまず知ってもらい、高校、大学、専門学校と連携して登呂エリアで様々な活動をしてもらいます。

##### イ 地域活動の場としての利用促進

例えば登呂まつりなど、登呂エリアを周辺の住民団体に活動の場として

利用してもらうことを促進します。

#### ウ 地域主体の登呂エリアの価値の創造・発信

地域住民が主体となったワークショップなどを立ち上げ、登呂エリアの価値を創造・発信してもらうことです。これを実行する上で、最初に取り組みたいのは、アの郷土のほこりとして存在感を醸成することです。そのために、学校連携や地域連携について、活動の場として利用してもらうための事業の在り方について提言をいただきたい。

#### 山岡会長

実際に学校で携わる方や、登呂で活動されている方など、常に様々な活動がありますが、その中で、今あるものにプラスアルファとなる意見を求めているということですか。

#### 館長

具体的な取り組みよりは、存在感を醸成するために、どういった考え方で事業を実施していくのがよいか、また、どういったことを優先して事業を組み立てていけばよいか提言をいただきたいと思います。

#### 山岡会長

わかりました。ご意見ある方いらっしゃいますか。

#### 北川委員

キーワードとして、ふたつ浮かんできました。

ひとつは、トロベーです。本校の入学式に、トロベーが登場します。登場すると子ども達から大歓声があがります。私は、今年初めて小学校に赴任しましたので、集会でどんな話をしていいのかわからず、パワーポイント、スライドを使ってわかりやすく話をしていますが、その時に、トロベーのイラストを使わせてもらっています。キャラクターを有効に活用すれば愛着につながるのではないかと思います。

もうひとつは、小中一貫教育です。静岡市は令和4年度から小中一貫教育をはじめするために、今、小学校も中学校も独自にカリキュラムを作っています。例えば、小学校で福祉の勉強をし、中学校でも福祉の勉強をし、というように同じ

テーマを繰り返し学ぶように組んでいる傾向があると思います。これから9年間の学びを再構築、再整備する取り組みがありますが、その中で静岡市教育委員会では静岡学を提案しています。オクシズ、しずまえ等、本市にある教育資源を使ったカリキュラムづくりをするために、高松中学校区でも小学校4校で、話を進めています。その中で、登呂について9年間でどのような学びができるかということを探求していこうという動きが起こりつつあります。そのカリキュラム、発達段階に応じた学びについて具体的なご提案を登呂博物館から学校現場にしてくださいるのはどうかと思いました。

本校は、登呂遺跡のお膝元にあるので、子ども達も気軽に遊びに来てるようですが、私自身は清水出身なので、子どもの頃から、教科書で登呂遺跡に親しみ、すごく誇りがあります。静岡市の登呂遺跡というと全国区だと思っています。しかし、ちょっと遠い学校、私前任校である梅ヶ島などは、登呂遺跡に行きたいとなってもバス代が掛かって、なかなかおりにくくてこと事自体が難しい。そこで、実際に来るための支援や、それから出向いて来ていただいてカリキュラムの提案をいただくような支援があると学校現場としてはいいと思うので、トローベアの活用とカリキュラムの2点を提案させていただきます。

#### 館長

今、北川先生からカリキュラムのお話をいただきましたが、今までの取組が単発になりがちだったので、確かにそのカリキュラムのような形にたどり着ければ、継続的にやっていけると思います。これは博物館から提案する形でしょうか。学校でも春に年間の事業計画を立てられると思いますが、授業とカリキュラムの違いとか、授業の空いた時間に提案するカリキュラムを入れるような形になるのでしょうか。

#### 北川委員

社会科をはじめ様々な側面があると思いますが、ひとつの切り口として、総合的な学習の時間が、週1時間、2時間、確実に位置づけられていますが、登呂博物館のカリキュラムで毎週やるのは物理的に無理だと思われるので、小学校であれば、中学年と高学年の2回で、発達段階に応じてスポット的にできることをご提案いただければよいと思います。この学年の子たちは田植え体験、この学年の子たちは育てたお米を使った料理体験など、そういう機会がありますよと教

えていただく感じで、綿密な物でなくても全然構わないと思います。

館長

ありがとうございました。イメージがわいてきました。

山岡会長

私からも質問させてもらってよいですか。それは、博物館で授業を全て準備するというよりは、様々なアイデアを使ってできることや、テーマを提案することを考えてはどうでしょうかということですか。

北川委員

パッケージみたいなものがあれば学校としては使いやすいですね。

堀切委員

今のお話に関連しますが、全国様々な博物館で学校との連携については、同じような課題を抱えておられて、それぞれ工夫しておりますが、中には博物館側で、きちっと45分の授業枠を作っているところもあります。それは博物館側が学校に出かけて行ってやるものもあれば、学校から団体で来ていただいたときにやるものもあります。そのようにパッケージ化されたものを用意して、ホームページとか、学校に周知しておく。全国で色々ありますので、事例を参考にされてはいかがでしょうか。私もそれほど詳しくありませんが、日本平動物園も何かありましたし、大阪の天王寺動物園では、かなり細かいパッケージを作っていたと思います。私が勤めていた静岡県立美術館では、粘土や絵具の教室があって、幼稚園とか小学校の低学年向けののですが、何分で、どれだけのことをやって、時間どおりやれるカリキュラム化された事業案があります。

あと、カリキュラムを作る時に、もし可能であれば、ぜひ現場の学校の先生と会議のようなものを持てると、具体的なものができると思います。博物館側の人間にはどうしても学校現場のことはよくわからないものですから、アイデアの提供はできると思います。だからそれを授業の中に形として押し込むには、現場の方の力が必要ですので、学校の現場の先生を入れたプログラム作りをやっていただくとよいと思います。県立美術館の場合、県や市の教育委員会から学校の先生が、館の学芸課に三年交代くらいできていただいています。それは県立美術

館としても非常にありがたくて、現場のことを知っている人がいると現場に則したパッケージづくりが具体的にできますので、ぜひ現場の先生を交えた議論をしていただけると有用なものができるかと思います。

山岡会長

ありがとうございます。静岡市では博物館で先生方が話せるような仕組みはあるんですか。

館長

連携事業の時に来ていただいて、事業についての打ち合わせでしたらやることはありますが、それ以上の連携は残念ながら今のところありません。

堀切委員

もうひとつ申し上げたいのが、先ほどのお話にもあったとおり、この登呂遺跡は間口が非常に広くて、それが非常に魅力的なんです。建物のこと、食のこと、治水のこと、それらは学校の現場で様々なかたちで活用できるはずなんです。先生も先程おっしゃられましたけど、家庭科の授業で使えるだろうし、もちろん総合的な学習の時間や歴史もそうだし、美術だって使えるかもしれない。様々な授業で、様々なプログラムが多分できるはずだと思います。だからぜひ、現場の先生、それも様々な教科の先生を交えて、やっていただくと非常に豊かな可能性が広がるんじゃないかなと思いますので、取り組んでいただければと思います。

弓削委員

その部分に関連して、さっき、郷土の誇りとしての存在感の醸成をどのようにやっていくのかについて、その度合にもよると思います。私が、出張授業で最初にやるのは、まず、大学の先生や企業がもっているものについて、どう生かしようがあるかという話をします。それで、具体的なプログラムを作るという、それをふまえて提案をして、募集をかけています。登呂は、すごくいいコンテンツがあるので、本当にやるのであれば、まず、大学のそのカリキュラムを、学校のカリキュラムをよくわかっている先生方と一緒に、まず、カリキュラムとして、何が可能なのかを作戰会議のようなものをして、その成果をもって小中学校の先生と具体的に「こういうのを考えたけど、どうですかね」みたいな話をしていく。

もしチャンスがあれば、お膝元の高松中や 4 小学校で、小中一貫の準備で大変お忙しいと思いますが、どこかで研修に挟んでいただくとか、「本当にこれやるんだ」ということであれば、少し、仕組みを作ることで、大きな取り組みになるのではないかなと思います。

登呂博物館としてのコンテンツをどこまで静岡の子ども達に提供できるか、シビックプライドまで言うのであれば、ちょっと予算も多くつけてもらえたらいいのですが。る・く・るでは、小学校の先生方が入っていらっしゃるので、その面の強みは、すごくあると思います。ですが、本当に地元の小中学生に価値をわかしてもらうのであれば、まだまだ、本当に、いっぱいやることはあると思います。トロベという抜群のキャラクターもいますので、トロベで、4コマ漫画コンテストやったら、絶対いいと思うし、子ども達が体験するたびに、何か、発信する形を作ってあげるとか、お金を掛けずにできることもあるでしょう。でも、本当に「郷土の誇りとしての存在感の醸成」までやるなら、仕組みを少し整えて、その中に、民間で何か提案できるような人を上手く、入れていただけるようなことがあれば。それこそ家づくりの人達と一緒に企画をやってみましょうとか、全然違う道も開けるかもしれません。壮大な話ですが、もったいないとか、ちょっと今思っています。学校ではなかなか来られない、近くても、ここまで安全に子ども達をつれてくる労力がかかるので、来にくいってところも多分あったりすると思いますので、キットがあったり、人が出向いてくれるっていうのがあったら、本当に助かると思います。出張授業、本当に喜ばれますよ。

山岡会長

ありがとうございます。

学校連携の話以外も含まれた話がでましたが、他にボランティアなど地域の方もいらっしゃって、すでに様々な取り組みがあると思いますが、そちらで何かアイデアやご意見ある方いらっしゃいますか。あるいは、先ほどの学校連携の方でも、何かあればご意見お願いします。

上原委員

子どもの小学校の社会科見学で、1回来たきりになってしまって、その後来るには、やっぱり遠いんですよね。親御さんも、昔行ったねとか、外国人みたいな顔をした蠟人形の展示があった頃に1回行ったかなとか、そういう方が周りに

いっぱいいらっしゃるんです。なので、例えば、小学1年生はドロだらけでカエルを捕まえるだけでも楽しい。そういう関りだった。中学年で、遺跡ってものがあるんだって知って、中学校では暮らしぶりとか、その先に見える人間関係だとか、社会学的に学ぶという、成長に応じて、常に、関わっていられるような長期的なプログラムがあるととても良いと思います。今は、展示を見たら1階で体験して終わりになって、そこから深掘りができていないような感じなので、ぜひ地域に飛び出す博物館と言いますか、面白おかしく語っていただくだけでも見方が変わると思います。私もこちらに出入りさせていただくようになってから、例えば、発掘現場の白黒の写真を見て、全国の考古学者の重鎮の奥様は静岡県民が多いのは、あの時に知り合ったんだって聞いただけでも、その写真を見る目が変わっちゃうっていうんですかね、なんかにやにやしながら見ちゃいました。でもそういうことは展示を見ただけじゃわからないところです。一例ですが、様々な方面から光りを当てるようなプランがあれば、もっともっと楽しい魅力がある博物館になれると思います。

#### 山岡会長

もう少しお聞きしたいのですが、それは大人向けのコンテンツを作った方がいいということですか。それとも、もう少し、ボランティアとかそういうものも含めて人が集まるような仕組みでしょうか。

#### 上原委員

もちろん子どもたちに継続的に成長に応じて様々なアプローチをしていくのも大事ですが、一回離れてしまった大人をもう一回引き寄せるのも大事だと思います。なぜなら小学校の子どもたちをプライベートな時間で連れてくるのは大人です。ただ、親は魅力がない施設には子どもをつれていきませんよね。ディズニーランドは遠いと言っても何回も行きます。子どもたちが喜ぶからというものもありますけど、ベビーカーを押してまで親も行きますよね。なので、やっぱり親も取り込まないとなかなかこう子どもたちの、それこそシビックプライドは大人から「登呂遺跡があって、あなたはいいところで育ったね」という親からの刷り込みってすごく大きいと思うので、教育もそうですけど、ぜひ親も、大人世代にも訴求するような何かがあったらいいなと思います。

## 石亀委員

今までみなさんのお話をお聞きして、専門的なお話が出ていましたが、私はこのすぐ近くに住んでおります。それで、今までも言ってきましたが、登呂遺跡は近所の住民にとって近くて遠いところだ、という反応を私自身が感じています。それは、地域の人たちはすでに何回か来てるからでもあるでしょうし、ここの収蔵物の価値や魅力の発表がまだまだできていないように思います。ただ、この前、非常にすばらしい広報がありました、登呂地域を紹介するテレビ番組が夕方、職員さんが出まして、私これを見てすばらしいと思ったんです。今は食文化というか、食に対して非常に敏感ですし、この近辺でもレストラン、食堂が増えています。そのお店を紹介しながら最後に集まったところが登呂博物館だった。それを見て、すばらしい広報だったなと思っております。一番最初から話があったように個々の実績はやはり集客力に尽きると思っていますが、それは、今みなさんがお話したように、子どもたちのことも大切でしょう。しかし、私はなるべく早く、この8ヘクタールの土地を有効利用するためにはどうしたらいいかっていうことを、ここの地域の市民、住民として、この登呂博物館、登呂遺跡を一度見直してほしいと私は思っています。それによって愛着も出てくるでしょうし、これから子育てをするお父さん、お母さん方の集いの場になったり、また高齢者の集いの場になったりと、登呂エリアというものの見方、考え方、とらえ方、こういうものをもっともっと泥くさくとらえていただきたいと地域の住民のひとりとして考えているんです。登呂遺跡、登呂博物館に対して、地域の人たちの関心が非常に薄いことを身にしみているんです。ですから、もっともっと泥くさく、地域の人たちを、どうやって集めようかというところに目を向けて、心に向けてもらいたいと思っています。私は静岡新聞を取っていますが、登呂遺跡のいい記事がいっぱいあります。私はこういう立場で登呂遺跡を見ているから素晴らしいなと思いますが、一般の人たちは多分無関心だと思います。だから無関心の市民の人たちをどう登呂遺跡に、登呂博物館に、登呂エリアに目を向けるか、向けさせるか、心を寄せ合えられるかということをお考えいただけたら、地域の中の登呂遺跡になってくるんじゃないか、また、そうしなくちゃいけないと私はずっと思っています。だからここの非常に広大な土地をどう活かしていくか、この12,000~13,000点の所蔵物の価値を、素晴らしいものだということを市民にもっと広報していく必要があるんじゃないかと、そうすることで市民の目が登呂遺跡に向いてくると、このように思っております。ですから、もちろん様々な教

育上の問題も大切だと思いますけれども、そのもっと前に、私たち市民と登呂遺跡とのギャップがあまりにも差がありすぎて、市民の考え方っていうのはそこまでとても行ってない。このギャップを埋めることこそ、これからの登呂遺跡の発展につながっていく、集客につながっていくというように考えています。

山岡会長

今おっしゃられた地元とのギャップは、登呂のごく近くのことですか、あるいは静岡市全体のことでしょうか。

石亀委員

それは、静岡市全体です。もっと言えば、全国的にも言えるかもしれませんね。以前と比べるとね。

山岡会長

例えば、近隣の方々とどのくらい連携してるのかというのも面白い視点なのかと思いました。

石亀委員

ですから、先日のテレビ番組（静岡発そこ知り）はすばらしいインパクトがありましたね。ああいうことによって、グルメというものを媒体として、市民と登呂博物館とが近づいていくようで、非常に良かったなと思います。

山岡会長

ありがとうございます。他にご意見ありますか。

海野委員

先程のカリキュラムづくりのための作戦会議、その仕組みをどうしていくかの部分で、地元の方々含め巻き込んでいくことが存在感というか、登呂遺跡を意識に植え付けていける部分になるかと思っています。できあがっているものを、さあできたよと出すより、巻き込んでいくところをカリキュラムか、プログラムか、そういう部分で仕組みを作っていくのが大事かと、それに連携して、生涯学習センターや市民活動センター、職業体験のま・あ・るなど、そのカリキュラムを体

験した後、もうちょっと、敷居が低い、先ほどの場合だとへそもちづくりですとか、敷居が低いところで折りたたんで何度も何度も子どもたちに登呂を思いおこさせるような連携をしていくことができればよいと思います。市民活動センターでしたら災害とかのコンテンツを欲しがっていると思いますし、生涯学習センターの各担当者も本当に頭を悩ましているのです、何曜日とこれぐらいの時間だったらこういう対象者、小学校3、4年生向けの物だったらこういうものができる、できればカリキュラムで終わった後ぐらいの時期にしたいよというくらいまで持っていければ、何段階にも子どもたちにアプローチをしていけるのかなと思いました。

それをやるにあたっては、先ほどのお話で出てきましたお土産物屋さんがたくさんあったとか、蠟人形とか、それらはシーンですが、思い浮かんでいる。いい悪いは別としてもそれが愛着だと思うんです。先ほど北川先生が誇りに思っているとお話されたところは、声がすごく力強く、全国区で教科書に載っているところを誇りに思っているとおっしゃったんです。それは自然に誇り思う部分で、何を提供してカリキュラムを作ろうとも、その根幹に愛着とか誇りを、誰もが共通で思える何かを仕込んでおかないと、結局は、やったよね、こういうものを作ったよね、で終わってしまうと思います。

今日、議題の提言内容の最後に事業の在り方とありますが、在り方の部分で気になった、愛着と誇り、キーワードでみんなが思い浮かべような何か、それがまた観光につながっていくのか、口コミや、勝手に語りたくなっちゃう、北川先生が声をはったように誇りに思うとお話しされたようなところが伝わっていくのかなと思います。そこも含めて仕組みをどう作っていくのか。さっきもったいなっておっしゃっていたんですけど、みなさん本当に優秀というか、ここ数年間で広報も展示も企画も本当にすばらしくなっていると言いますか。きっと巻き込んでのカリキュラム作りもできるのではないかと感じています。実は愛着とか誇りの部分は、ご意見もっとお聞きしたかったんですが、お時間が過ぎてしまっていますよね。すみません。

山岡会長

ありがとうございます。それでは時間となりました。みなさまご意見いただきましてありがとうございました。みなさまからいただいたご意見を登呂博物館の運営に生かしていただけるようお願いいたします。それではこれで議事を

終了させていただきますので事務局にお返しします。

館長

大変活発な議論ありがとうございました。今非常に重要なキーワードとなる提案や、芯になるべきご意見を色々いただきました。これについてはまた整理して、次の協議会とかで整理しながら深めていくような議論をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

それではこれもちまして、令和元年度第二回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。協議会は年間2回開催する予定でございますが、本年度は既に第1回を開催しておりますので、次回は令和2年度に開催となります。時期は6月頃を予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日はお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長

---

委員

---